
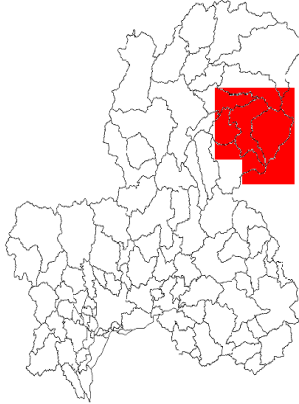


クロカンバ	<i>Rhamnus costata</i> Maxim.	絶滅危惧 I 類
		クロウメモドキ科
選定理由	既知のすべての生育地で生育条件が著しく悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	落葉低木または小高木。長枝の先端は長さ1-1.5cmの頂芽があり、先は鋭く尖る。葉は対生し、長さ8-17cm、倒卵状長楕円形で急尖頭。裏面に隆起して目立ち、脈上に淡黄褐色の毛がある。花は小型で、葉腋に数花ずつ束生する。葉裏の脈上に毛のないものをナンプクロカンバ f. nambuana (Honda) H.Haraという。	
生態的特徴	山地の沢沿いの岩石地に見られる。花期は5-6月。	
分布状況	日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。岐阜県においては県北の東部に見られる。	
減少要因	生育環境である落葉広葉樹林の伐採や、植生遷移の進行による被圧。	
保全対策	現状の生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	「日本の野生植物 木本Ⅱ」(佐竹義輔ほか(編), 1989年)	

文責: 奥田浩之